古代への夢とロマンとの不思議な出会い

㈱新井建設
新井藤水

時の流れと共に環境や自然は変わり失われる訳ですが、幾ら時代が進んでも遺跡はしっかりと残り、中には二度と作れない貴重な価値の物が有るとこの度、身にしみての体験をしました。

平成10年秋、一本の電話が鳴りました。三瓶自然館（佐藤仁志さん）からです。三瓶小豆原地区に埋もれている古代杉の位置が分かればおしえて欲しいとの事。自分の記憶を頼りに探すと返事をしました。

昭和58年、工事中に現れた立木。

思い起こせば**16年前（昭和58年）、当地区の圃場整備工事の時、現場監督をし重機オペレーターとして作業中、大きな衝撃を感じ掘って見ると直径1.3m位の樹皮がついた状態の杉の木が立っていました。**まさか根がついているとは思わずワイヤーロープを掛け重機で何度も引っ張ってみましたが全く動かず、チェンソーで切ってみると、生きた杉の木の様に鮮やかな色をし硬く、建築材料にも使えそうなほどでした。年輪も肉眼ではとても数えにくいぐらい密であり、また杉特有の匂いに圧倒されました。等々、次々に当時の様子が思い浮かんで来ました。

平成10年11月14日、重機（バックホー）を現地に運び当時を思い出しながら場所の確認をして、堀削に掛かり数時間後、一本の杉の木（直径1.5m）が見つかり16年前が再現された思いでした。それから後、この杉の木を年代測定すると同時に調査は進み、縄文時代後期（3500年前）に埋もれた物と分かりました。

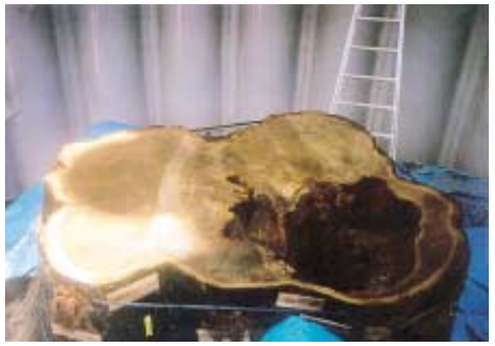
同じような高さで残っている10本余りの杉。

そして、4500㎡の水田の表土を剥ぎ取り、深さ2.0m位全面に掘り下げると、ほとんど同じような高さで焼け残って立っている杉、10本余りを見つけ出し、それが第一回目の一般公開となり、県内外より500名余りの人が訪れました。

その後、一番浅い杉2本を根まで掘り出す事になり、土止め用鋼矢板を打ち込み、周りの地下水を下げる為のストレーナー管を立て込み、水をポンプアップしました。しかし、水位はなかなか下がらないうえ、火山灰の粒子は小さいためポンプはすぐに目づまりをおこし、一雨降ればすぐ一面、池のようになってしまいます。それでもどうにか水をぬき、それと同じくして掘るだけでなく火砕流がどのように滞積したのかなどの調査も進められました。又、古土壌の上に溜まっている落ち葉には杉、ウラシロウガシ類の葉が0.2m位滞積し、これが3500年前の太古のものとは想像もつかない位はっきりと形が残っていて、その中から昆虫類の残骸も180点余り採取されるなど、当時の自然環境の全てを埋蔵保存した、正に縄文時代後期のタイムカプセルといえましょう。

当時の確認作業は進み、調査掘りの1本の大杉を『三瓶自然館（サヒメル）』へ展示標本する事に決まりました。ベノト掘削機械にて土止め用鋼管杭27本（φ800－L＝22.0m）を直径8.0mの円周に打ち込み、止水壁を作り掘削作業は本格化すると同時に、地下水の高い土質で杉の木の表面を痛めないよう狭いスペースでの人力、ミニバックホー等による掘削、クレーン車によるバケットでの残土処理作業は容易ではありませんでした。

なんとか地上より14.0mまで掘り下げる事が出来、計画では12.0mで切断する予定でしたが11.0mより下は2本のまたになっており、切断位置を変更して10.2mのところでチェーンソーで切りました。吊り上げてみると



年輪が4ヶ所ある合体木。

残った切り株は全国でも非常に珍しいほどの、年輪が4カ所もある合体木の現われです。4本がくっつき合って、12.0m上では１本の杉の木に変わっていったであろうと思える一面がこの残された根株で想像出来ます。

移動展示した後はこの立杭は埋める予定でした。しかし、これだけの珍しい物を埋めるのは勿体ない。そこで、是非、保存展示が出来ないだろうかと計画案が出され検討されました。

その数カ月後、現地保存展示棟を作る事の決定です。又、掘り下げる途中の調査で分かったのは地盤より6.0から9.0m下がった地中には倒木が沢山ある（大きいもので直径2.0m、長さ30から40m）事が判明しました。そこで、この地中には、太古の時代の自然がそのまま残されている可能性がますます高くなり、これは是非とも現地保存して全国の方々にぜひ当時の火砕流の滞積の状況、また、倒木の押し流され集まった状態をそのまま見せる事が出来ないだろうかと、三瓶埋没林調査保存検討委員会と県の景観自然課で案が練られました。

更に掘り下げていったところ、倒木も現れた。

その結果、県からも予算をつけていただき、現地保存整備計画が進み、直径30m、深さ13.5mのドーム型の展示棟を作る事が決まりました。平成15年4月に完成した『三瓶小豆原埋没林公園』の内部では間近に見て、触ることもできます。3500年前の縄文時代からの贈り物**「縄文のタイムカプセル」**と呼ぶに相応しい価値有る物といえるでしょう。

ドーム型展示棟の工事現場。右側にあるのが第一発見の杉の木。

皆さんを古代への夢とロマンの旅へ誘おうと待っています。是非ともゆっくりと時間をかけてご覧下さい。

三瓶小豆原埋没林公園